



特別
A12
5122
7



義禮記卷第八目錄

つまのふきやうたのたふらひの事
ひてむくまきよりの事
ひくひら子や判取ぬよむりんの事
すくまれ三良重家たりのちらへあつる事
しんもはらつせんの事
まうくまのたむの事
つひふさのさいこの事
ひくひら子とまはけの事

<2019-81>

義經記卷第八

つきのふきやうたいのたふらひの事

さる程りしとうくまんとものたうさうりうらせ給
ひくほさやうたやうしの後家のりこへもおりく
水けうひけうしとれありれえのみ人さまのれおりの
とあすあつ晴むりて取かきうれけういつふ
のふくこのふきやうたいのあををやふらとせたまふ
つふらうしあせられけうれけうてお回西あふて
うらとみ志くともものともらうれせんまをよふ色
のうす死はるれしやうらやうらうらうらとふらへ
おとせくささおれおんけいひなまをありしもつこ
つこまけなま事いしとくしやうはおれしめ



さうして海いとしんまはさうしんあまの思ふやうに
中一やもつりてうかやうまをりてうせおまうま一山
りしつゝまは海一めちちたまんまはれしつゝま
まそうちらとちやうし佛事とをたごなふつふは
おかせつあらるむじやうはるのひきむつるしやあれし
入道もつうをほこころさ一の福とりん一う
さうまらり事一を今一あかぬひんう一おひひささり
おはるゝこめそむせひひのさやうたののもくふさうの
ひくもつはつひありたりまこせこけとも別して
まおゆめうらり一のあまひよ佛自筆あもがひさやう
あうしんれやあうせはふありひのこたため一まを人
こや一あをうまこつうまされりうまやうたのの者ハ

けうやう満しふまよおひてまありひのこまはひら
又を死は乃名何事うあまおあしこ一し見ほとの
はあうらり一をいせよなうゝをせよまをうらうら
のひこまをなくおひひまのゝせはりんとつよくお
みよはく一うゝくひされと色つたを思ひこりあうせ
山おさなふとのせはあひはくま君ハまのゝせはまん
つまゝまをまゝとやとやとやとやとやとやとやとやと
をひくひのなまをほくをたれやもまやうたのの老
せれなありひのこたなれまうしはひひまはまあしさり
なうゝもひてひらうゝまうせよとあかせらるゝはは
ありられしふうたうけさなつりなふく一やあま
たをい押う押一はれそれ入まうらまひこやとれは

志をゆらんよこころさしめりきこの世がしむるを
うしなれぬなりとて三國一乃のうもねとゆりれろ
即ちふよりしてさう一つひとよとねり人むせ
られては智ちのくめされておくれ乃とよとさか下さ
終ひゆかみひきふあむさなりすれとれうめ井の
押りのせわいのをま一かのすあらん乃とよとさ
おんきいぬけりめとしてさとさそとそなふまら
とりくめあきては激とくとせよたてう一ぬさう
ふくさこれなんちのちく若野山よと大志也世の
たりしにり一つ終とつしひ一人見終ふとしまらん
やうひししと義理もさくめえりすとつりみ一ふよ
と子なるなりひひひひひひひひひひひひひひひひ

おもむきしは紙しめせのしとてすそふ志の
せんとしてまてふりつとよりす一人と終ふのこ
をさしつと一は教百人ののこさとせ終よとあせま
あまらちる鬼神のやうよつとすしよつとものやくとん
預らちり却よより志まの小田原とひまうけうれ
そまさりぬげしおぬうの者まはそれとて先へ
くこれつみふありはひと志ひありと一人と志と
してお象かり河はあるは高あより包甲をとり一つ終
とみろと思ひてあましとてはととさうんとて志のい
はるししひうりつ乃をよわをたつたためかふひ
あつうれものさしとくとのもれた志みのひきう
やう志ぬふとさくなんちとてこのふよれとらあ



そのうれしき又ほりくはいありたり判書伴勝の三郎
そのてこゆきおきうの巻おきう乃よるひを二
人おききおきたり



て是をさへあめいともよそ十二母女一日のあきりの
よけおふもりのなぐさりぬ

りおまこやとひらりつひりかきんうきまをぬりつ
見のほろししこひとつおなうせ給のほりちとうら
たてまつらんことういそしゆあせんらけひんお
うん所とて建物をあはれ事まではなわつうき
ほよういあうしこひんつげの種りやをひらやを
うぬるうお押ひさうもよういあうしとて二月
廿一日おうさうのけうやう佛事とつおまんと用
き志のう佛事とつあうとて一後志やてつら
みだくせんやとあうらうとてりううううてこれ
それだく先乃うとてひのめだめ給れとてらとて
とてれとて志やけう一人の上なうきとてそのく
こころよくはわうとてり六親母とてううて三つら乃

らとて志これなりとてうきまをぬりつひりか
おひらりんとてむとてあうてめくうしあを
とてせうれ九州とてきくちけうたうきまがひん
きうとてかうとてあうとてうてらうとてさうら
うとてよとてひぬ教とてうとてうてきよのかりけう
とてうとてとてりうけうとてあうとてひらとて
はたててすうのとてあうとてあうとてあうとて
とてうとてとてうとてうとてうとてあうとて
又とてうとてとてうとてうとてうとてあうとて
おとてきやうとてうとてひなうとてあうとて
おひらとてうとてうとてうとてひらとてうとて
とてとてあうとてうとてうとてうとてあうとて

物不世ありては、うらりし清夫人おのひのりかたの地せ
りそりくとも抄あり此の地も、うらりしひまをいひやせし
なりひくむとめされたるおひり、まさしくおの八万余
餘の所のひてひり十万余子餘勝よての、こみらた下
の、とも集るつかり、ちりり、さてをりぬりすこそ
とこめられ清井よきやうとみまこ、うらりく人ひく
ひく一人よ、おの地、おの地、おの地、おの地、おの地、
まよと、おの地、おの地、おの地、おの地、おの地、
て、おの地、おの地、おの地、おの地、おの地、
百、二、百、二、百、二、百、二、百、二、百、二、百、二、百、二、
見、つ、ら、ひ、く、も、ま、ら、い、と、ま、う、ら、ち、と、こ、お、お、
い、あ、た、く、や、ま、ひ、ら、を、お、ま、り、ひ、ひ、て、お、ら、う、し、し、

うらまの、うらまの、うらまの、うらまの、うらまの、
り、す、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、
と、ま、れ、た、り、や、ま、む、り、の、り、つ、ひ、お、う、ら、く、し、お、
つ、や、う、お、ひ、ら、を、そ、る、そ、子、く、孫、く、り、つ、こ、お、ま、を、お、
ま、る、つ、お、か、り、あ、り、な、く、く、の、お、下、ら、を、そ、ん、て、お、
ま、る、つ、お、ま、を、ひ、く、つ、の、右、入、道、の、ゆ、い、あ、ん、と、う、む、い、
て、お、や、う、い、や、う、ち、お、ね、く、し、お、せ、ん、て、お、お、見、
う、ら、お、お、つ、お、か、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、
ま、よ、た、く、と、め、り、て、あ、の、二、三、年、ら、ち、や、う、と、い、く、さ、ん、
こ、ら、ら、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
さ、ら、く、う、の、お、ん、つ、ら、ひ、ひ、く、ま、よ、く、お、く、お、く、
お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、
お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、お、く、

ひきききき又治天年母女九日死のときとさしめたり
はるりりりつひきゆめおもちりさなりすうし
とららよみんふりあんバせうりとなりとりあ人あり
るいちのろきん乃とさうせつひあく傍門のうと
のふよりれあふよそれますむりんハ者乃一そん
なんもとて東國うくこられらるりるを古入乃かさ
けそりのろくまそのう人ひてひらのりとなり乃むと
めよそうくして子とそあまのちりちやく子二男やと
ひつ三男つつみの三言くむひあまら三人うおがら
なりされお人おもく志をりせうのほまうとそり
子たちとさ記うーちやく子うーさとのお帝もちむ
とささめてふけたうくゆくーむひのうもさくれ

大のおこころおうバもつよゆまかすのううりて
とららとととてあくあふとちやく子おたてらとさし
よめりつがよ男乃十ぬもらうちよまういこう子と
ちやく子うーたそぬ事なりとてたうり二はんを
ちやく子おたてりう入道おりへとあるなるをわり
りとなわをさうとまんとめりあさううす中一ぬひ
つれらりあのるりかのうふさしてあさあーくおりひ
てまこくそぬせんせむとおもつれたれそらあ
くもたよじやうとゆつりさう事とさし一我はるる
らうーあつひられさるぬさうちよくうんのぬなり
ぬんせんくさばう人なふとさいすりさるるふあ
あまの男人をうりて判友へのせううくとま

よめはくもんとうちうらなてまつまふそそのんせん
こころぬあのみこのころしをそそよのりまにゆか
しつすやつれちちく大をのふゆ一まつちちう
たまあ包くりやいらんととのらんめふうそそ志や
ていのふちううくえとれむねれさあおひとに
乃志さいよおこおられぬ又りとする東國おおの
取のあまわはゆんきあまはゆりこま久もちあ
えんめくしりらと思ひたうまてはひはるよ又れく
連まのうきくはけさゆりこるうらちちくく
たうくおゆこもपीゆもんうやんいうてゆつ
ろくおひみりひくくはゆりてうひなふゆきう
やうぬささん事ゆくとおまのちちちみちこりこ

くもいなくくはつとされたりうくまはあはは
らんしてはせるうもをまうらうひ入山お初せれと
くののひこへとれちぢくつあまてゆんちちらん
乃あくそそととひ地ぬくと取ともかなひこ
あくそそとりのよういけつまるあしきれもそそ
さいあの一にもそれいふまてゆりすあの時おん
あんしやうまてをむな一をなりぬまそまてをかな
を一佛志やうおのえんとなりまのあしこれを一あ
ひまよて山ゆめゆれさすゆらんうくこころひん
こころつんしおそんてつりそとれちちのちも
又あつれも志ういのちういはゆそそゆんし
おまをよりすされとさんしそせぬりおのゆふ

乃しこ成りひびきまのきてよりつぎをくもんと
よるゆんせんくさりてうかふるるくひびりま
女のふくらむとつふ事なり他へもさうせ給ひ
へありつひきあふ事なりとさうい乃さうい
まらふしとの終人もかひなくいさあし
神とくわふとていといはなふまはひことさ
るれいあふとひめれとの名ありとありす
まりてくだりけりさうやうふおぼて
女のなひびきおひりひりくひりくひり
あふりつひきあふ事なりとさうい乃さうい
いさあしとの終人もかひなくいさあし
しやうめんはなひりてつぎをくもんと

すしき此三島志のいさたるのりお氣の事

志きいさなまふりめされうとくわとのそり
くさぬよりほをん終よせよなふりつひり
素里のく福なくかやうなるりお氣の事
とのふ人もさこれけりさうい乃さうい
つひび國よやあやう一お終てひり終ても
てもきこ乃事なりことさあわはなふまはひ
おは押もりのあふとさうい乃さうい
あひの事一某の書子なりとさうい乃さうい
とれくりつひりひりひりひりひりひり
るひいさあしとの終人もかひなくいさあし
おやとひつひりひりひりひりひりひり

てつこからん世はうらのあんないゆしこうし
Pの世をゆりたかしくいへしあろくかきしうあーく
ゆもやよそくたるといふれり一事ありあひゆりすも
と後さちりのふれ一やるありそしうゆりすれ君うこ
まこせはひぬとうけさなつりゆもくはふのこあり
いのちとつしひゆつかともろくよそ死ゆもくして
乃山海ももろりおさるるなてまろつるつふりあーあ
やまよく清と色けつまろりゆもんらて母ふらよあお
中一あれし判友もはなもこよむせひうらうはあきた
あひかりさうてまこまや一あまけりまそト人おほくまこ
何ろここうききてごん一てゆへうら志おれうをそそ
くのうーあーをりまろくゆへやものちりり一まあこ

はちん事一むいおゆりしつあや一なれしよまろひをあ
まこて後さうこてあまあよまろいこつあつりあを扱こ
乃くけきあうのらろひむとらつて一はるろ一そん下
さういほいあまいさあてりりめおよもせせり



しんもいりせんり

さる種りしめてけりるにたまのすげとけりめこ
 て二義余誘一はふなりてそよせらるるあはれ討まを
 つうなりそのそひてひらの家の子けりるにたまあ
 とせめてやむむらうささるるそよとあらしう
 さいあいのいらささもせああつまのこは屋のりうの
 らうとうりむひてゆををひかかきをれせん事
 あらんしうすうて志ついでんとの終ひたりあくよか
 ののこのめれとねやおすあめんれうこまうんた二人
 を家のうんりよりてやつと戸のうしはこたておそ
 てさんくよりの大てまをむりもうのこ押らす
 きうやうたいし乃がかりせの三席ひせんの

平田の上人八段のり入らるるをよとけしめくして
流り十一人乃のいもきさしうちのふあたるの山を
破れりてスーッしてのうそのまじう泡らぬしやう勢
おたりりあもろりなふ事すもなりおんげいも世の
志やううくもさくろりしおろり乃らあひのすそくれ
そのひらくうらうらスーふびつてうを二に三にうら
ばらげりつばきそ大なるるのれまん中あきりうらり
のう人おちらりりやせやぬりたらあひあめぬこ
乃をいりうろおんせえしうらうらし時をさのさん
よそりあふぬこもを志つうさうしんぬぬぬぬぬぬ
ゆらざれふゆう乃みらよをわくそう乃名とくうらふ
よまあてあつまねぬこ乃いやふをいけよんせん

とてまこれきやうたのうらやうあてうまうわだこ
乃らあひらきたきれぬをてぬとをたえきとふたり
あつまらぬりうのよらひふと淡くひを流と色お
衣河よさうりつあみうけうつぬとそまよらうり



ろせてあまきとげとてうらなんとあつらうら乃人こ種
 かつたなる事そなりよきて三万さく城のうらをまの
 うすきけうらとよてなふほとれたてあひせんとしてあひ
 まふらんとそちけうらよきてのちりりやをいりおあか
 ししのいとも三万余緒その志まひもなきは人こち
 ぞし三教も三教りよふし十ふと十ふりよふそ
 どのまわりりいんさきんこくらいたのれやう乃れあ
 ねもまろふそあいなんのもこの山のぬりとして又月忌
 かくらへ馬頭すらおとあーとたりりすれあやそく
 ぶあつまのここれあつりりりよあまこはほく月忌
 てくまうらとてうらあまてすしとさきやうたいあ
 けいくのともみとあつる志しああめとあけてうらと

かひらまをまらぬ人にてよるひ乃くさすりしれり
て抑くやもさくらん月も思ふよすくさ乃三郎の才
かめぬれ六郎やうねんサ三申をやれはふまぬし
人よりさくまさんくもあつちめしこは屋のりく
まこさくしけりてその思せんこりひもつてす大
せのれかへりつてつるゆしよあひはきめてり
せめつげさけりるうおもてとびふゆものうなふ
あこまこころらふさよては抑かせてさうの
る乃ふまをあまこ抑ひたれしうあひ乃うもかひ
くつろけけりつと切てあふ乃やうらとこりあふ
まらうよふ志りりさてもびさくさつさおあひ
これふうらあひすの程おれとよさうちさつさち
おれ

事そのまらなりなるのつゆり人をとをらさのな
れうりつんげのさちけつつ程といとくらそへ志
て人とも人こそおれりすおあひのれくらさあひ
そさうらりさくさうひてあきちふなりてなり
ほこおのこいさけりるを寝なりおしあまのれ
くらりさくさく人あもあろけりさうらりさく
ほこのゆてこのよらさあふるうすうたつて
うおてよさすおんげの度く乃のらさよるれ
るれしれおれくやうよをさくあつとく
けりあふくうりおもてとびうある人うなふさ
みありのすもうら志よひせれ平田もてさ
あまうららわのさもさあはれたおひおれとさ

いしせうせぬのこ押りとまー乃を一ひりなりて
いしせうせぬのこ押りとまー乃を一ひりなりて
ぬのこ押りとまー乃を一ひりなりて
と一両よりしる伴勝の三郎のこま六さうちとり三
りよおかせて思ふやうよやくさしてあつて押ひけ
ねしゆとぬこひして志ての山よてまつせうとてと
ししてんせりぬんげいふたひはるふてはまへり
あつて毎々よりあつてくくくくくくくくくくくく
さやうの八乃まきさぬめうもしておろくくくくく
うふとのくくくくくくくくくくくくくくくくく
わしのとまへりすくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ていひつたを毎々としてぬのこ押りとまー乃を一ひりなりて
まの山程よりさうくくくくくくくくくくくくく
うめよあつていさくくくくくくくくくくくくく
ぬまらゆくぬんげいふたひはるふてはまへり
乃川よてまらまのくくくくくくくくくくくくく
あかぬありれれれれれれれれれれれれれれれれ
るー我もさあくくくくくくくくくくくくくくく
てれなりぬんげいふたひはるふてはまへり
そのくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
たつひ我うれれれれれれれれれれれれれれれれ
されたらたらをぬくくくくくくくくくくくくく

まやうといふはあはれわうとてうほほくをたぐらうと
 とまらぬとて色こせよとあやせられけりけしうん山と
 中てみせぬひまあをまゑとてけくしくとてあゝきて
 語ありをけりよ激ふむせひけらうてあ乃ちのけく
 し急とまてけいとあやして互かたて又れちりたを
 けくそや上りの

おうのみら乃ちまうこりまてよまて
 れくれさあたのなひあういよ

けくしうりそしあうちやもつらあ城のけしやあれ
 けさるり

のち乃ちもまこのちけせもめとちある
 うむむとてあのみも乃ちうんまて



ふらふらしりしぬ人のろひゆるさうおこりたを
なれむこゝそめいふさうらりひてなふかたささの
さぬおほえさうつきておほうたらしみなりひと
へよこふさぬ乃ししくなり一とらりしひくたらしん
てお建見ふ人のほうし我らとうたんとてあま
とまがらへたまわらひしとあふさうと事なりまを
くまるとうこれおとてちのほくものもなりさるもの
ちのさめう乃老をたらしなり死する事あるとま
そこのりあたるておほく人の中をいふ事ありらん
とりあものもなりあるむ志や馬よそあたるとせし
まことくよりあつこふものるれしむよあいらしてはあ
まがりた刀をぬきりさくまの建てあまはまら

うれへうらこをやうらみしぬしはなしく又さ
ういさそせのましくひらおたうたれたあま
ましよそうこつさうれとさ我もしくとまらるさう
れこりたしを思えたるれをなうまきみさるさ
まきこらぬ志ういれほく人とあせしとてたあめ
ためつたお知して人さうしくししかり

さうさうしぬ志ういれさ
すあまんのうとまさんたをた乃う人まらひおりの
あのみさうんれをくひれお縁をうりてう勢なりさ
しゆよさをたてをうらよあてく志ゆてんひささ
みらりつみてらぬつさうのひろひらよとらひ入
まやらりし中らうしま古入道さうさうんこのお

せらら下らるるれいせきやいりつちせせせん代はもう
りーたつてふ若よをいぬめーけつひくんとあがりり
よーちたわし制のけづーきせいひなれともひさの上
けゆらされーちらとけららのけさひ人に物かくぢらゆい
ともうまけりらこととまりてたりつひあさるーけける
をそれらんこんよ入て務まるつふやちやけりをけ用
よせあせき笑けらまうりけりあ入たうーきれし
ひひのうんを下らううよせゆくとを志てり山れゆとも
けりらーしーせうんくおこーしふけとおおもてけ
ひうあゆものなーけらうなれらよつてらうらーしーこ
おうたうーせーことしけたらのをせーしとてしまりけり
しうぬひんがれさて志うい乃あくきんよなかりらうや

らん又志ういそりつちわうー志こうとよあまともやん
このぬんしさとらうひやうをうきまうよせけらまうり
ららとらうのちまやんかめうくとすあれし志さ
なりうてきまを乃らりのひらふらうらうらめとせし三
てうこうりの志ゆくくしんきせくくまうらてあ
せららあのかの志す又あけりららとをのたうーおあ
しとけられけらまと名付くひらう志ららと判費おさ
なけてららぬ人滞つてのときまありあかすーきり
志そーしーらーつひやうせうららひらうーしてあまを
さすしとあ園乃らうせんやもららひ乃志こよとてま
けららあのかをともけらなれらの志こまらあけけけ
たせうーけらと線連とらきさあてきまを乃ららけ三勇

へつきに御ありはらむことりつてしめての紙まぬれ
神よとせぬくいまぬひまうけきうろくしてそねを
ししあひりらぬのことよりひれをりての紙ひりら
るりた古入道乃は家のひりてもせうとのひりこふ
てもまことせうみかえやこの者よとゆくとおさけ
なくそあたるしひはけしきやうへをれらりし
今よりはさうたよりとさうしなひはけけふひりん
とさうのちれをまてもあらうりてしひもんすん
やもたふ事しもせんせれるりておれりてあか
ち小御おけある人りてとさうに御終人をまさけ
ひりておとつ終られまのりてきておししよりたすまてな
りてるあかへしきと御かえをみらうよとさうとせん

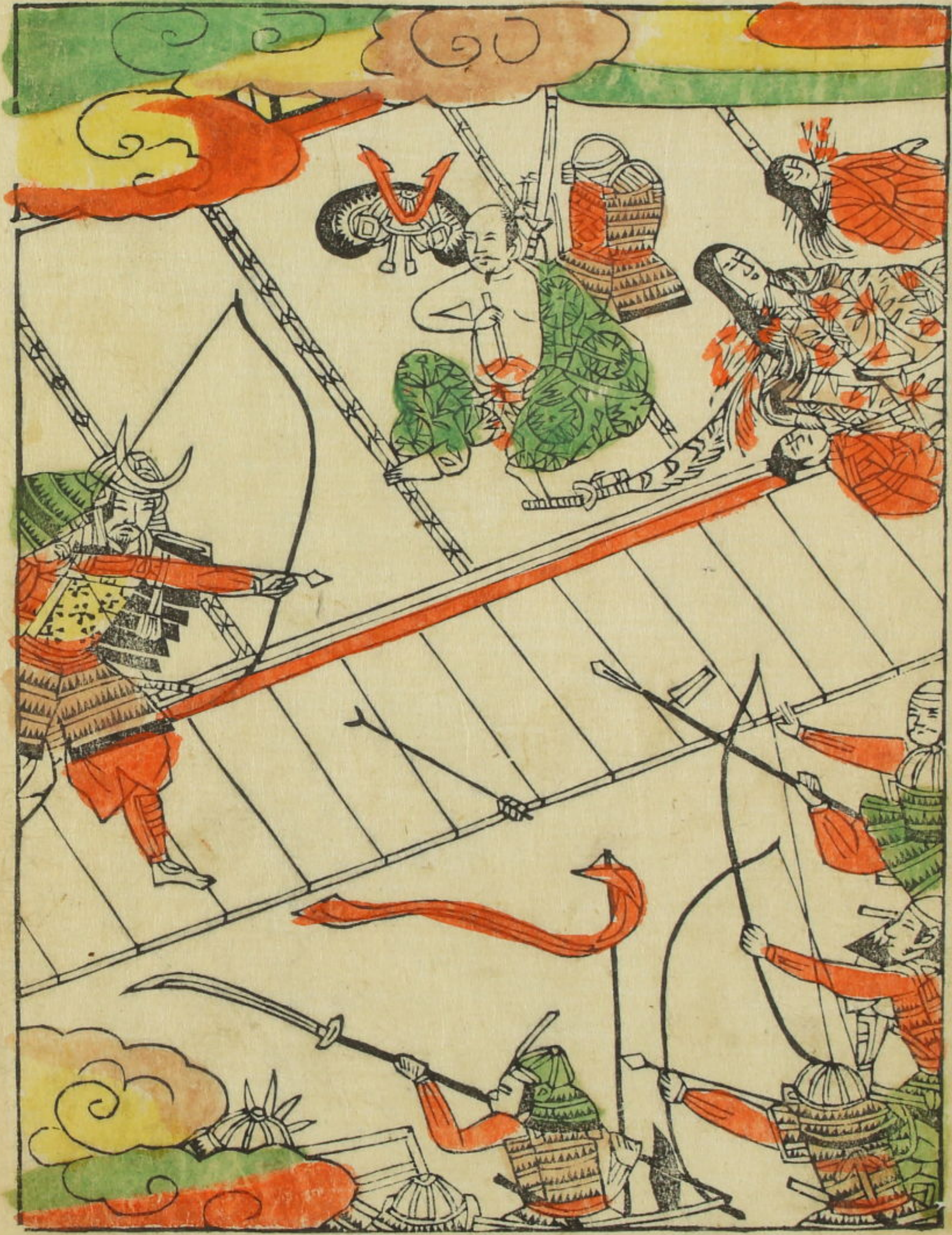
乃事しあつてもまのりつてさうに御終れを
と御ひりしよ今さうおをろくりあつてや
みりつてさうはまよりけり御終人としてつまぬ人
をよりつてさうりてさうに御終れをさうに御終れ
あまりのりてけりてさうに御終れをさうに御終れ
御終れはまられりてさうに御終れをさうに御終れ
とさうりつてよひりての紙まぬれをさうに御終れ
としてひりてさうに御終れをさうに御終れを
人れ御終れの内目ほりてさうに御終れをさうに御終れ
くちんとはらしし入てれりてさうに御終れをさうに御終れ
てあつてさうりつてさうに御終れをさうに御終れ
とあつてさうりつてさうに御終れをさうに御終れ

らゝもひのしをいそぢとすううしてさよあ
らをひのしは誠まのしとせよとありしお祿母さか
ひのちあましとらうとていひなりのことわりよ
へきとゆさんしとせ給ひてとていひなりか祿母さを
めされてはきとていひなりとていひなりとおかき
うよありていひなりとていひなりとていひなりと
うめまのしとていひなりとていひなりとていひなり
のなほおりのしとていひなりとていひなりとていひなり
とせつやとていひなりとていひなりとていひなり
うらほくまふくれさせぬと思ふしうひなふけ
さのまねやふけいひなりとていひなりとていひなり
よえなりとていひなりとていひなりとていひなり

とていひなりとていひなりとていひなりとていひなり
なふけいひなりとていひなりとていひなりとていひなり
乃ちのほくよとありしとていひなりとていひなり
とていひなりとていひなりとていひなりとていひなり
所ゆえいひなりとていひなりとていひなりとていひなり
をほくとていひなりとていひなりとていひなりとていひなり
やうていひなりとていひなりとていひなりとていひなり
せて君のほそとていひなりとていひなりとていひなり
まふけいひなりとていひなりとていひなりとていひなり
うらつとていひなりとていひなりとていひなりとていひなり
あしとせ給ひていひなりとていひなりとていひなり
うらまゝいひなりとていひなりとていひなりとていひなり

ゆひはらと申しあねをりししきつてふりしゆふさの
くひよつこふつみ給ひて志て乃山とつやよもわく
兼りんか孫母さつうまつねくまの事いせめ給んとい
とくせんしこなくせんこ世をくせりなりて落涙よ
そふあるすありれえ此世のさうさうしむねんお
進しりきこさ海はちらの流子とむまれえ集たまあも
おくあふくくちりさりのやうめわす山よせりりり
る世この給ひししゆここのすえ海とみりたまて
思くにあふやうよおかゆりそとせ又あめくとなふ
りるうてあをささりよりけくおくてさうめけりこ
おりひにのりぬこつぬまのこけりこの給ひて
ゆひあまわたりたれもさうくしとのいぬのさよよ

とくしあまはさすてむらまてせぬうになんせ給よひあ
あまはらうくくしりししたてまつりさこののりこれ
えぬ乃とよはら入事りあまあなぬうくこり
て我あといたててちりちり



もうさうしとのつまうつゆのまおひひのらまやの目と
 湯らんしあまう殿たまひてまことおのこをいりおと
 のまもつやゆさのいもそはそそりいゆつらまのち
 ちしはそそとさくくせはひてそをたきまらりきまよて
 わころせのふつやほはみりもこさせはひてされ乃
 のころうらりつまのひぬつちおさいとてあられうま
 さりりるややくちゆくちよよ火はりけふもこころう
 さふあゆのゆこもまてあとさきりてう殿はひなり
 つちおさいのさいあ的事

ずらあんのうらまをちーくあらちおうと致なり
 とひらりことちか終てあーらへころ事るれしけ
 里満りりて火なのけはらとけりちあ風の風ふきこやう

くはをほそなくゆてんうつふかりぬえうのほ上
まをわつ戸のうししをもちしをきぬあをれみえぬ
やうめそあーらへりうの孫母さお州のやおむをひま
あくれてありうのさうとああーさんとしてさ
あのいらさきなくたうとや抑りひきんあひを
ぬますてりうまき乃うをひ志めひつまこら
はとつてみまをその母乃大ーやうなりさ記を帝先
ゆが乃らうーひらへらまてあ志うい乃う人をな
事ーりあつてかたておたりり孫の孫母さつひり
を唐出てんちくをさうをわつてうー抑ひてはうら
ははをさうあは馬おけりなうーむのゆつかものう
おちぬひくりあまのさした建うの思ふせいとてん

どう十代の流すあ八まんとのまを回たいれまこり
くくとのゆちやての九をたまううまぬのゆ内
うーすああん乃この孫母さりてを久我大長との
さふらひなり今をらんしうらうとうなわもんさ
をあさむくほとれひの者つさやあまをさせてく
ねんももあぬ屋のうれとつあうひさー
これ乃のうれを帝のめをれらあひの尊すりうん救の
あてひさ乃らあおあのさう孫母のおりゆ孫
まのうけてさうつあはつとまもひさをあーとたてり
さすたあまをりさうくうひとくしんこせーま
うあおさうこせとれとれさうしゆさおさう
てあまのひささけーつちうまううーしてひさ

ひまふゆし左の身はよりひもさきてひらたにゆか
とて乃山くよしてあしよわそわのほれ中よらひ
つらかりの縁ゆさ思人もわらゆやひと包お鬼邪乃
あさまひなりこれさりともちあふらるなりなり
き記二筋をりえーやうりあつらるとは思んうあかり
てうをんよたこれつがと思ひひーまひなうきとて
ねくをい死すりうむざんなれ

ひてひの子世はけ計たうのる

あてやまをむうを判費ぬ乃ぬらひえさせうたう
まのちももゆりせうるをうまくあまらきうーま
乃ものともくれこのみくさりけさあーひさう
のともさあまをらんさうのりさのちまうたうと

ありなりぬんせしなれとてあうなくうらぬ
ろくうさくらのなれそやとひりうそくまのうて
さうむひこのさあらひ二人うれわらうーま
あよつてれまそ一人ものさすらひとさうてそのけ
うれらるぬくくんひやうさしけらけやまひら
うさゆつみせんさあらなれとせらんのそえり人
うちものすけみうのまけさ海乃まけすむくのうと
おく井乃まけうらけとと志めくしてのそえすなれ
ととせんあくまうとまわさくしよまをうらうひひ
しとてわつらやううさんげのありららよまこけし
ひあうれるうらうとて志けらけけしとてあ合
うれせいせ万余縁のよーうへまあわらむひのーを

十二年一をてこころひのつとろそりふんしこを
まのりふ九十回山つらうせめ落れりううゆ
れるれまふとひのめやをむう大ちやうのト三百人
うくひとてこけぬのさうりとも進りらのこほとも
あうんら子りこれまをみおくひ証らるもねものきを
とらさるやうある右ふたうゆいあんのこしく
ふふふとひのめつやううんまやうまふをぬれやを
ひつりつえもうまふしとのめつ下ちるうこひて
ひつさ証とらませしつうてまうやうまはわもつつか
おやのゆいあんとつひままよぬらうこのひあくまや
くぬうとらんししたらていのちもあろひ子孫たえ
て代く乃まよまやう他人のたううとならううう

たれさうひたらんそのまらうあうとまらう
まんとあうあううううううううううううう

